



スマイル天神 No.23



令和3年10月6日
天神小学校
校長 木下 和弥

思いやりのある子・進んで学ぶ子・明るくたくましい子

通知表の思い出

私は、子どもの頃、学校でもらった通知表を父と母に渡すときに、叱られたことは一度もありませんでした。今、自分自身の子どもの頃の通知表を見てみると、決していい成績ではありません。親ならもっと注意してもいいのにとか、よくこれで先生になれたな…などと思いました。また、子どものころは、よく泣いていたんだなあとか、身体が弱かったんだなあとか、水泳ができなかったんだなあなどと思いました。

私は通知表を渡したときに父母がすごく喜んでくれたことがありました。それが小学校5年生か6年生のころ。3学期の通知表を持ち帰ったら、母がすぐに「見せてごらん」と言って、見たのが出席統計の欄でした。(誰にも信じてもらえませんが) 私には喘息があって、身体もか細く、病気がちで、小学1年生の頃は入院したこともありました。それが1年間初めて欠席無し、遅刻・早退無しのいわゆる「皆勤賞」だったのです。「和弥、よかったね～、一日も休まずに学校に行って「皆勤賞」だね。」と言ってくれたのです。後から帰ってきた父も大変喜んでくれました。赤飯と大好きなハンバーグを作ってくれてお祝いしてくれたのを40年以上たった今でも覚えています。

親は、ついつい、勉強の成績のところを縦にざっと見て、よくできるのはこれくらい、普通がこれくらい、悪いのがこれくらい…という見方をしがちです。しかし、本当に大切なのは、学校に毎日、健康に行っているということだと思ふのです。

私のように身体が弱い子ども、病気がちな子ども。家庭的に様々な環境で、学校に行くことが難しい子ども。様々な心の不安を抱えて学校に行くことが難しい子ども。学校に行くことは、当たり前のように思うのですが、実は子どもなりに様々な戦いがあるものです。そして、この当たり前のことこそ、感謝しなければならないのだと思います。

欠席していても、昨年度より減っていたら、ぜひ、ほめてください。100点を基準にする必要はありません。以前の子ども自身を基準にすることが大切です。

そして、成績に関して、悪かったということがあるかもしれませんが、悪かったことを叱ることが親の役目ではありません。おそらく学校で担任の先生から何が課題かは話があると思います。「次はどんなことをがんばるの?」と聞いてください。子どもがそのことに即答できたら、ぜひほめてください。「それをがんばったら、後期はよくなるんだね。がんばろうね。」と励ましてください。

命にかかわるようなことや、いじめや差別のように人権を踏みしめるようなことに対しては本気で叱らなければなりません。しかし、勉強の成績は、「本人が努力してできること」と「本人が努力しても今はできないこと、時間がかかること」の見極めが必要です。親だからこそ、温かく見守り、ほめて、励まして、支えていただきたいと思っています。よろしく願いいたします。



天神小一徳運動 「気持ちのいいあいさつ」 ～あじさいあいさつを～

～あいての目を見て ①ぶんから ②わやかな声で ③いつでも・どこでも・誰にでも